教育最前線 連載14

●（財）日本交通安全教育普及協会／月の輪自動車教習所・「家族を守ろう！セーフティーセミナー」

“交通安全教育は家庭から” 学んだ安全運転のポイントを家族に広げる

（財）日本交通安全教育普及協会は、自動車教習所と“交通安全教育は家庭から”をテーマに、「家族を守ろう！セーフティーセミナー」を主催、（株）ブリヂストンの協力の元に開催している。平成21年度は、全国15カ所で開催を予定している。

9月24日は、月の輪自動車教習所で地域の方に呼びかけ「家族を守ろう！セーフティーセミナー」が開催された（主催：（財）日本交通安全教育普及協会・月の輪自動車教習所、共催：瀬田ライオンズクラブ・大津警察署、協力：（株）ブリヂストン）。

バーストしたタイヤを見せながら、タイヤ点検の重要性を伝えた

ポイント① 体験から気づいてもらう

「家族を守ろう！セーフティーセミナー」では、開催教習所毎に体験のメニューが一部異なる。月の輪自動車教習所の場合、スキッド・ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）体験、飲酒メガネ体験を独自で取り入れている。馬場克巳・技能指導課課長は、「安全教育では、知識として知っているだけよりも、体験し気づくことによって、自分の行動の改善や万一の時の行動に役立つことがあります。しっかりと急ブレーキを踏むために運転姿勢が重要であること、飲酒運転がなぜ危険なのかなど、体験から感じてもらいたい」と話す。

ポイント② 基本を見直すことが安全につながる

「クルマのタイヤの点検、自転車の点検、運転姿勢、お酒を飲んだら運転しないなど、基本にしっかり立ち返ることで防げる交通事故はたくさんあります。まずは、基本を見直していただきたい」と馬場さんは話す。

ポイント③ わかりやすく、日常生活で実践しやすいように伝える

タイヤの点検は、面倒だと思いがちだが、タイヤの空気圧や溝をチェックすることは普段は点検をしないという女性の受講者も簡単に行うことができる。点検でタイヤの空気や溝の減りを発見したら、販売店やガソリンスタンドに任せることも可能だ。

また、自転車の点検では点検箇所を“ブタはシャベル”（※内容1参照）というわかりやすい覚え方で紹介する。覚えやすいので、家庭で子どもと一緒に自転車点検を実践しやすい。

家庭で交通安全について話すきっかけに

この「家族を守ろう！セーフティーセミナー」では、安全意識を家族へ広げてもらうことを目的としている。まず受講者自身が体験し、自分の安全につなげてもらう。そして、受講者が自宅でタイヤ点検などを行うことで、受講者のクルマに同乗する家族を守ることができる。さらに、家族に飲酒運転の危険性を伝えたり、子どもに自転車の点検方法を伝えることによって、家庭の交通安全意識を高め、事故防止につなげることができる。

「今日の体験をきっかけに、それぞれの家庭で交通安全について話をしていただきたい。家庭から家族の安全を守ることにつなげてほしい」と馬場さんは期待する。

低空気圧のタイヤだと側面までも接地してしまい危険だということを指導員が説明した

「家族を守ろう！セーフティーセミナー」の内容
（月の輪自動車教習所の例）

1 座学

座学では、「前回クルマのタイヤの空気圧を充填したのはいつですか？」などの問いを交えながら、日頃からのタイヤ整備の重要性を伝える。

また、自転車の点検箇所（下記参照）と、点検のポイントを紹介した。

ブ……ブレーキはよく効きますか？
タ……タイヤに空気はしっかり入っていますか？ タイヤはすり減っていませんか？
ハ……ハンドルは、タイヤと直角に取りつけられていますか？
シャ… 車体（ペダル・サドル・チェーン・反射器材など）が壊れていませんか？
ベル… ベル（警音器）はちゃんと鳴りますか？

2 スキッド・ABS体験

最初に、教習所の指導員がABSの装備されていないクルマとされているクルマで、滑りやすい路面で急ブレーキをかけるとどうなるかを実演。ABSなしの場合、ぬれた路面上でスピンしてしまうことを見せる。また、ABSありのクルマは、急ブレーキをしっかり踏むことで、きちんと止まることができた。

次に、万一の時にすばやく急ブレーキをかけられるよう、日頃からすぐに強くブレーキを踏むことのできる姿勢で運転することが重要であることを説明し、シートに深く腰かける正しい運転姿勢を紹介。続いて受講者がクルマに乗車し、滑りやすい路面で、急ブレーキとハンドル操作を体験した。

3 飲酒メガネ体験

受講者が、パイロンで作った狭路を、普通の状態と、飲酒メガネをかけた状態で走行し、飲酒運転の危険性を体験。ほとんどの参加者が、飲酒メガネをかけての運転ではパイロンにぶつかった。

指導員は、飲酒運転がまだゼロではない現状を紹介。飲酒メガネでは視野の体験だけだが、実際に飲酒すると判断や操作の面にも影響があり、さらに危険であることを説明した。

4 タイヤ点検

（株）ブリヂストンのインストラクターが、タイヤの空気圧は放っておいても減ってしまうことを説明。タイヤの空気圧が足りないと事故につながりやすい上、燃費が悪くなるので、クルマのドア付近や、取扱説明書に書いてある指定空気圧を確認し、販売店やガソリンスタンドなどで月1回の点検をすることを推奨した。

また、タイヤの溝が浅くなるとスリップしやすくなる。溝が1.6mm以下になるとそのタイヤは使用することを法律で規制されており、スリップサインが出ると、交換が必要であることを伝えた。

5 空気圧（コーナリング体験）

受講者は適正空気圧のクルマと低空気圧のクルマでコーナリング走行を行い、乗り心地やハンドル操作に違いがあることを体感した。また、指導員が低空気圧のクルマで40km/hのデモンストレーション走行を行い、タイヤ側面が接地することによりタイヤに傷がつきやすくなるなどの危険性を確認した。

読者の声

●静岡保護観察所（静岡県）
工藤由紀子さん

保護観察所では、交通違反を繰り返すなどで交通短期保護観察処分となった少年を対象に交通講習を行います。クルマやバイクの走行で気をつける点を指導しています。SJにクルマやバイクの運転で注意すべきことが掲載されていると参考になります。

SJはすぐに活用できる情報やイラストなどが入っていて読みやすく良いと思います。また、高齢者や自転車の交通安全に役立つ情報が掲載されているので、もっと広く一般の方にも伝えていく情報だと思います。製品を作って売るだけではなく安全・安心な社会のために企業責任を果たそうというホンダの姿勢は素晴らしく、継続発展させていっていただきたいと思います。

ご愛読者のみなさまへ

SJに対するご意見・ご感想をお寄せください！
SJ編集部では今後の紙面づくりの参考にさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想・ご要望を下記メールアドレスにてお待ちしております。
sj-mail@spirit.honda.co.jp

次号は2009年12月7日発行予定となります。